

縦隔腫瘍と思われた一例



岩手県立中部病院 放射線科

漆田 咲礼

【患者】

36歳 男性

【主訴】

突然の喀血、呼吸苦

【既往歴】

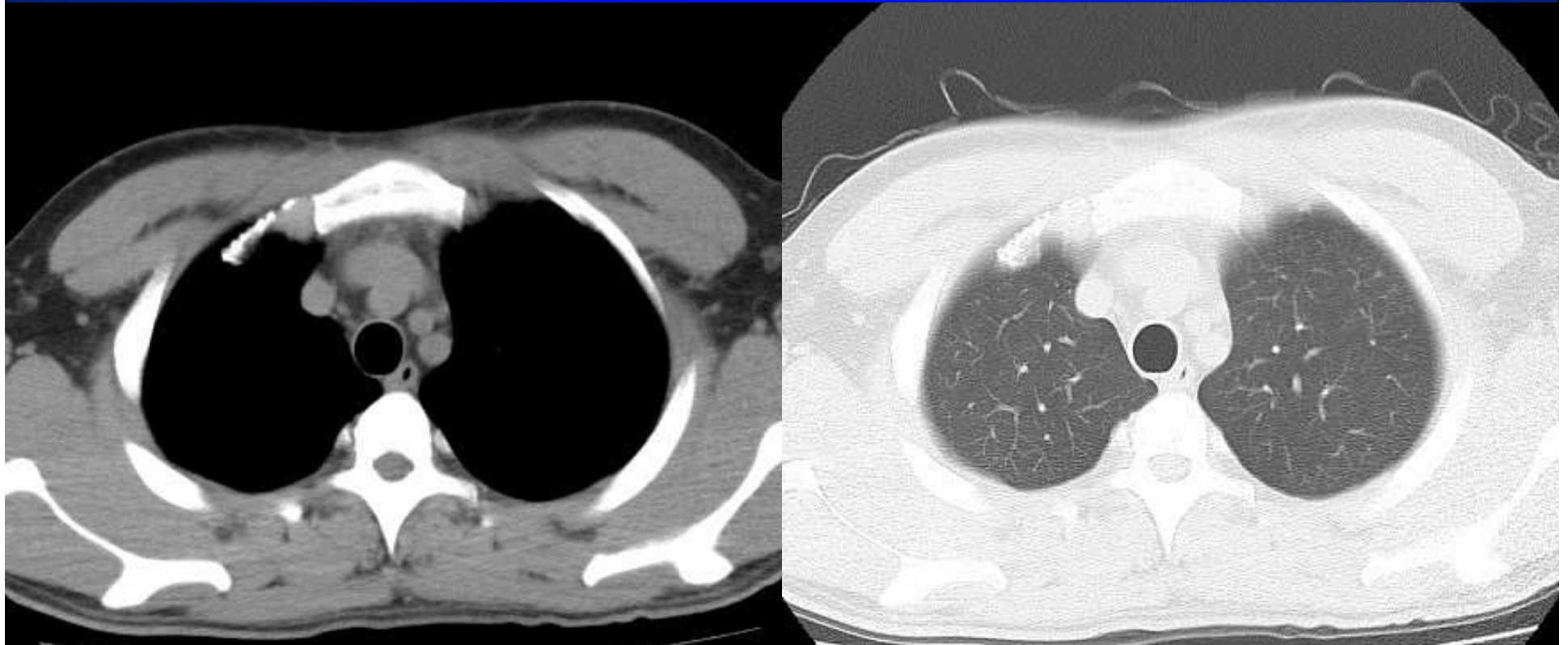
10年前 両足骨折

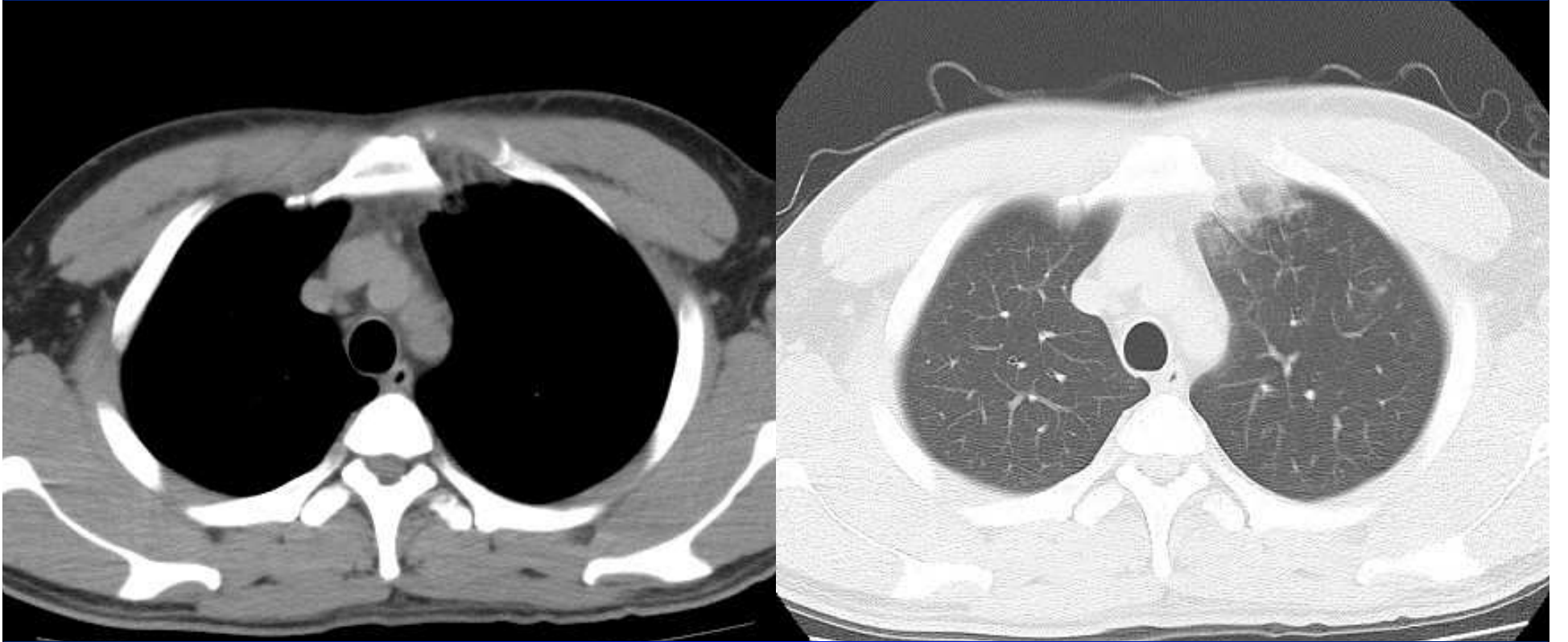
今年2月 胃潰瘍にて内視鏡的止血術施行

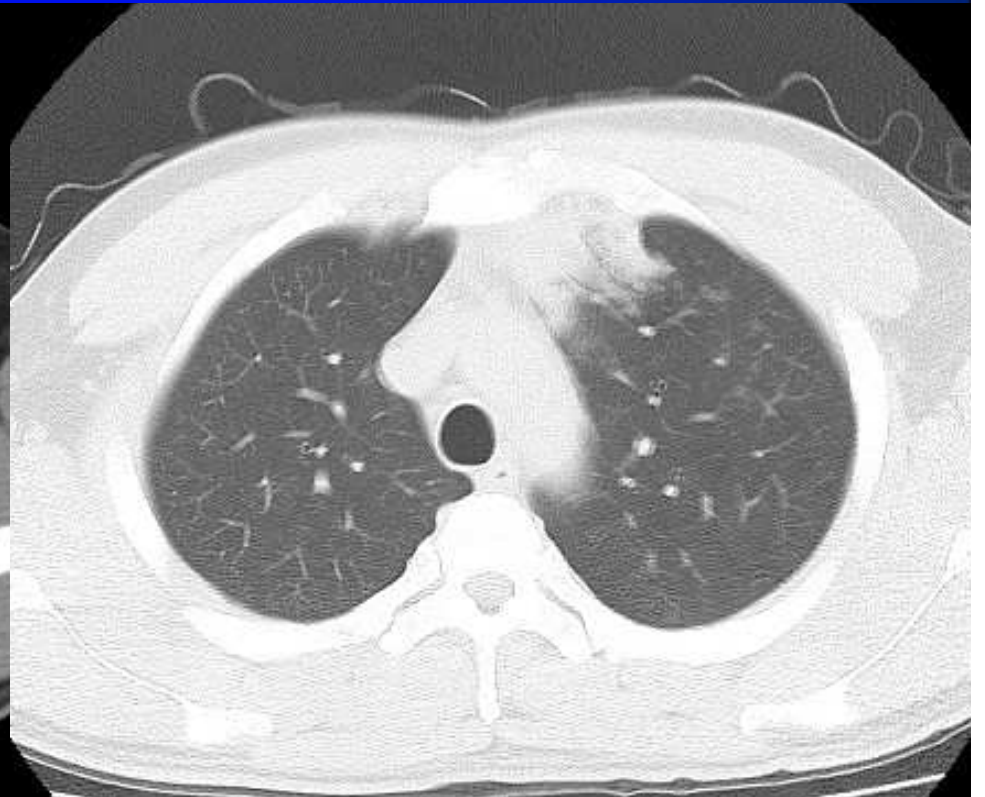
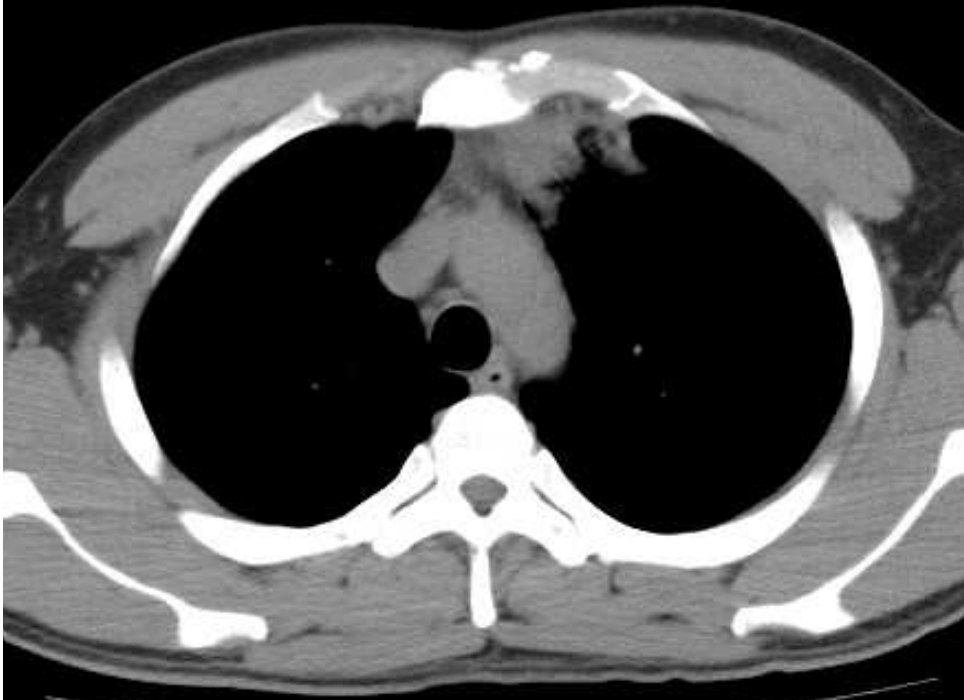
CR

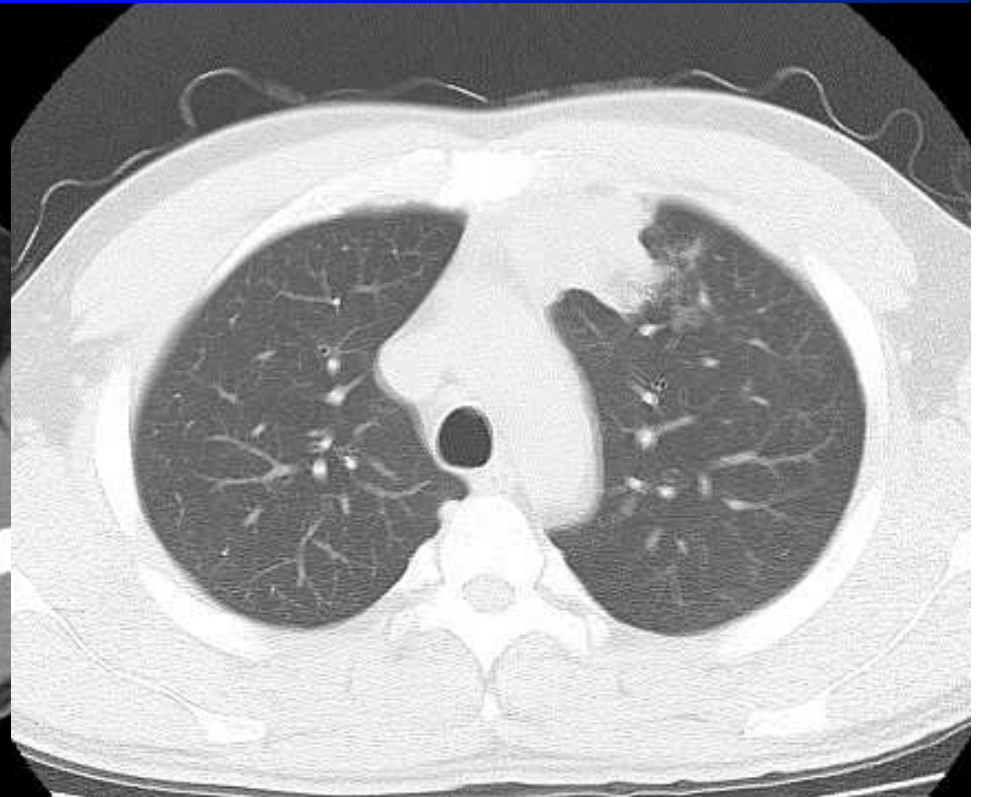
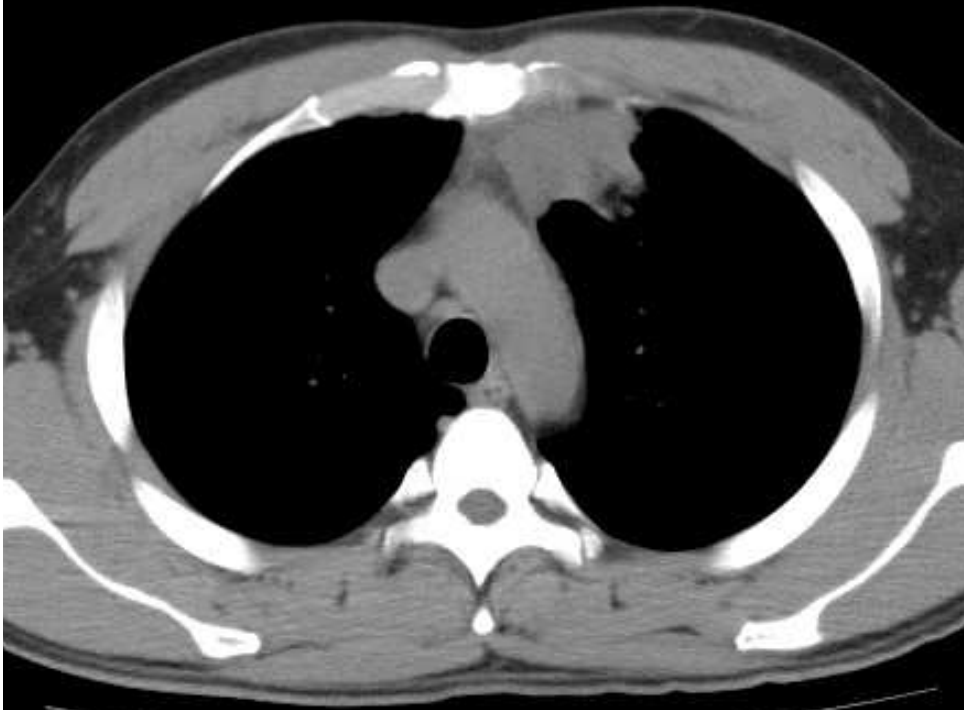


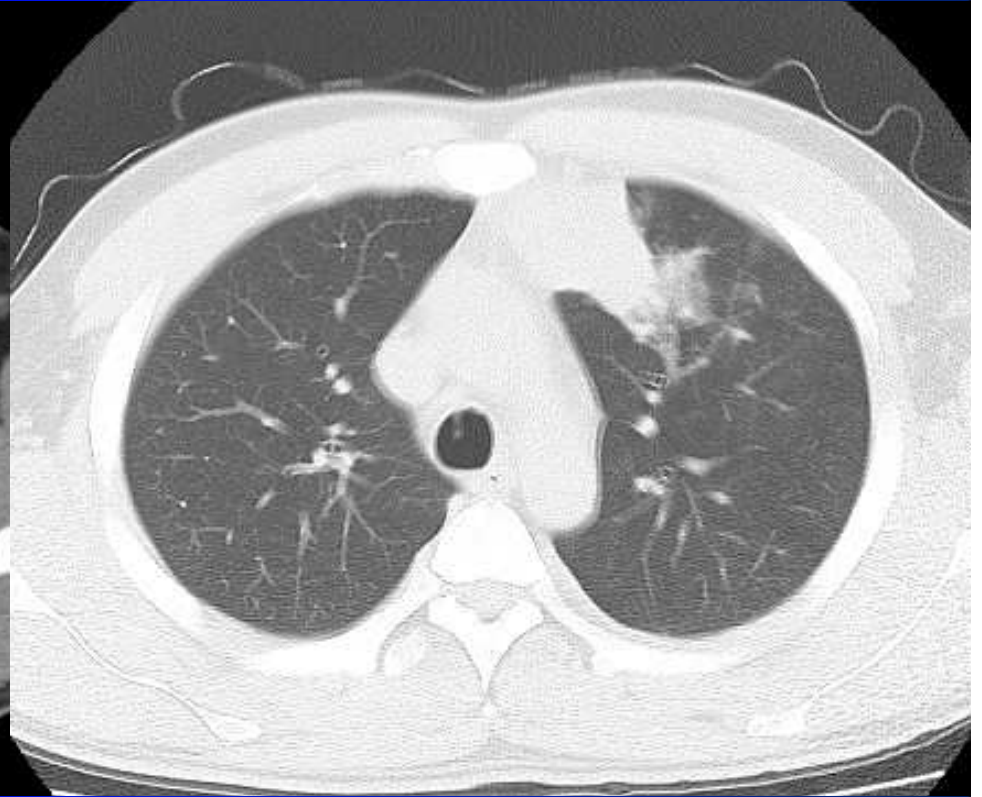
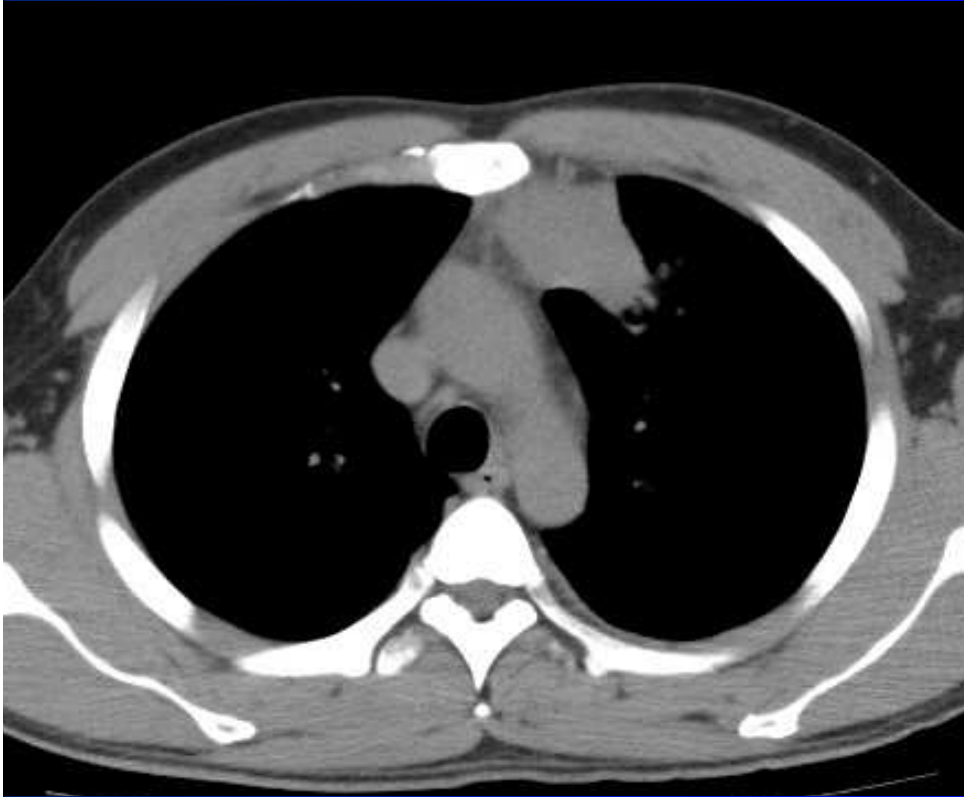
単純CT

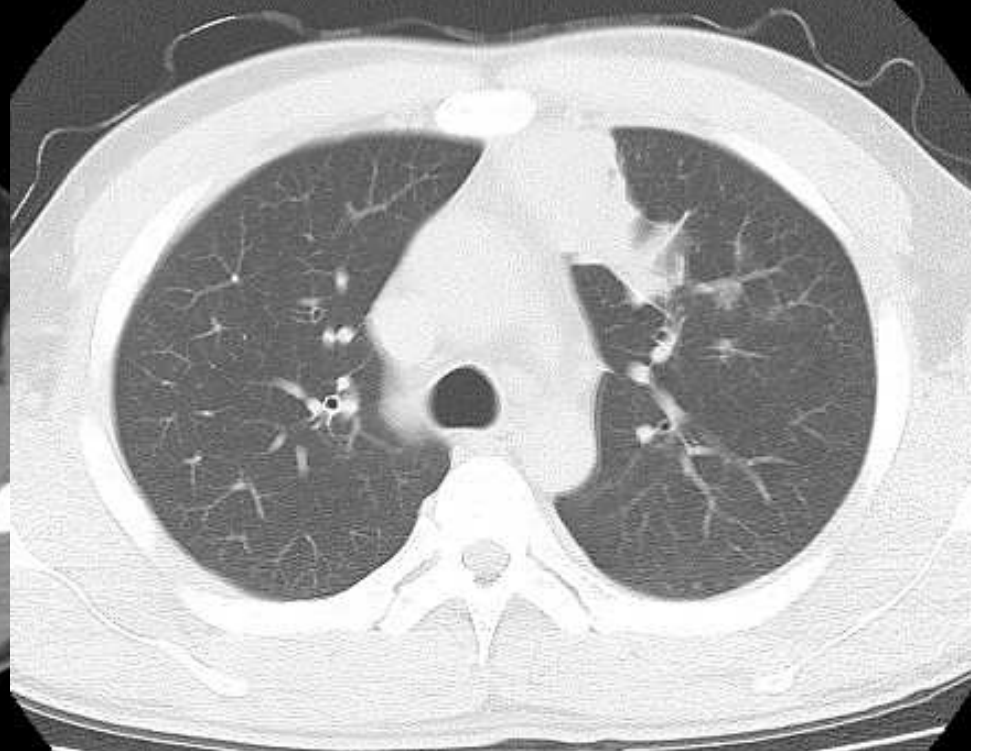
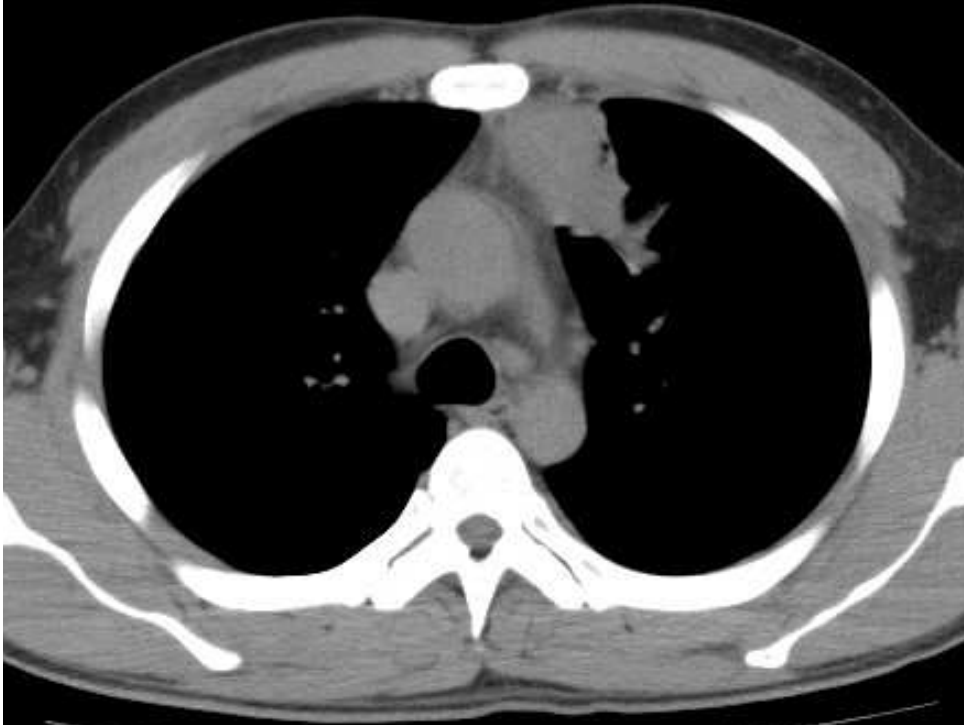


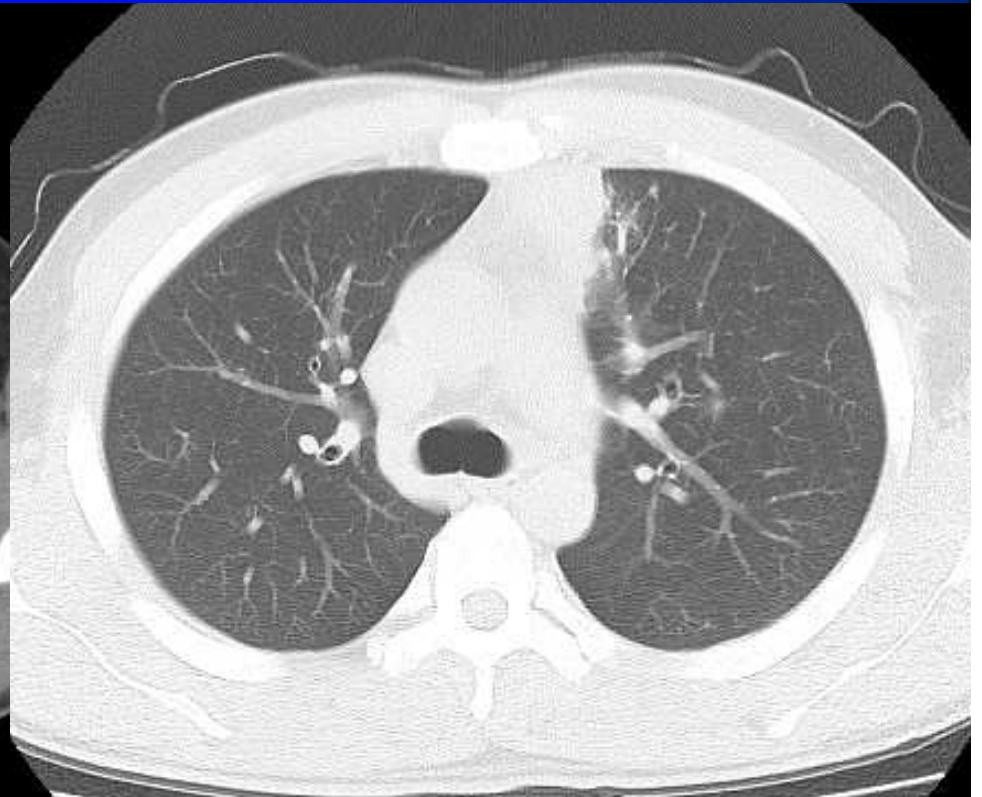
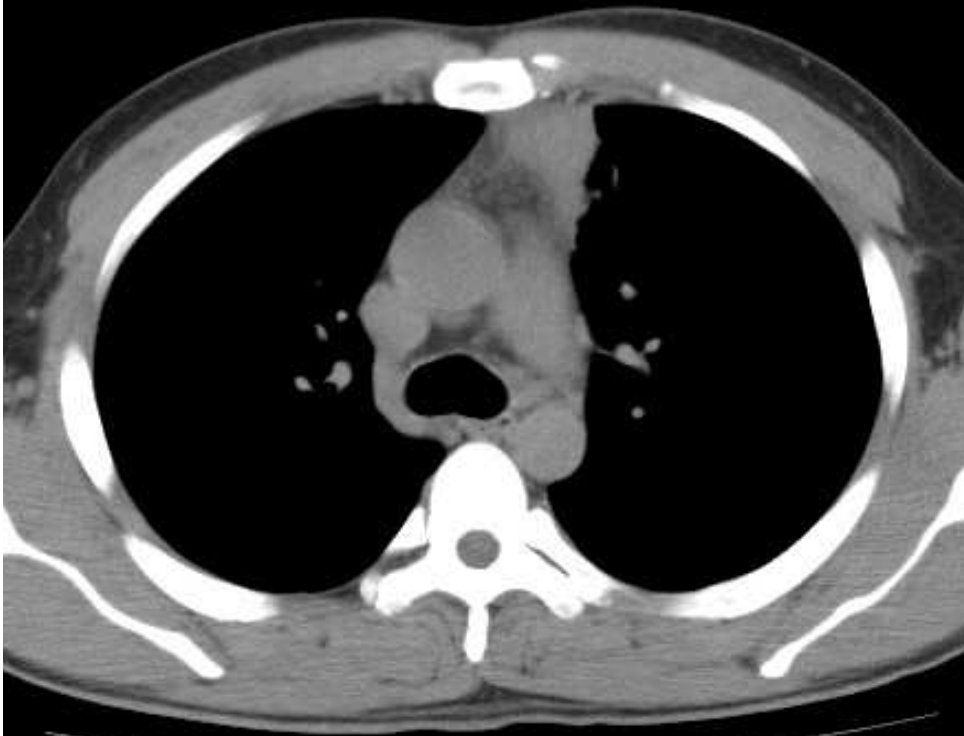


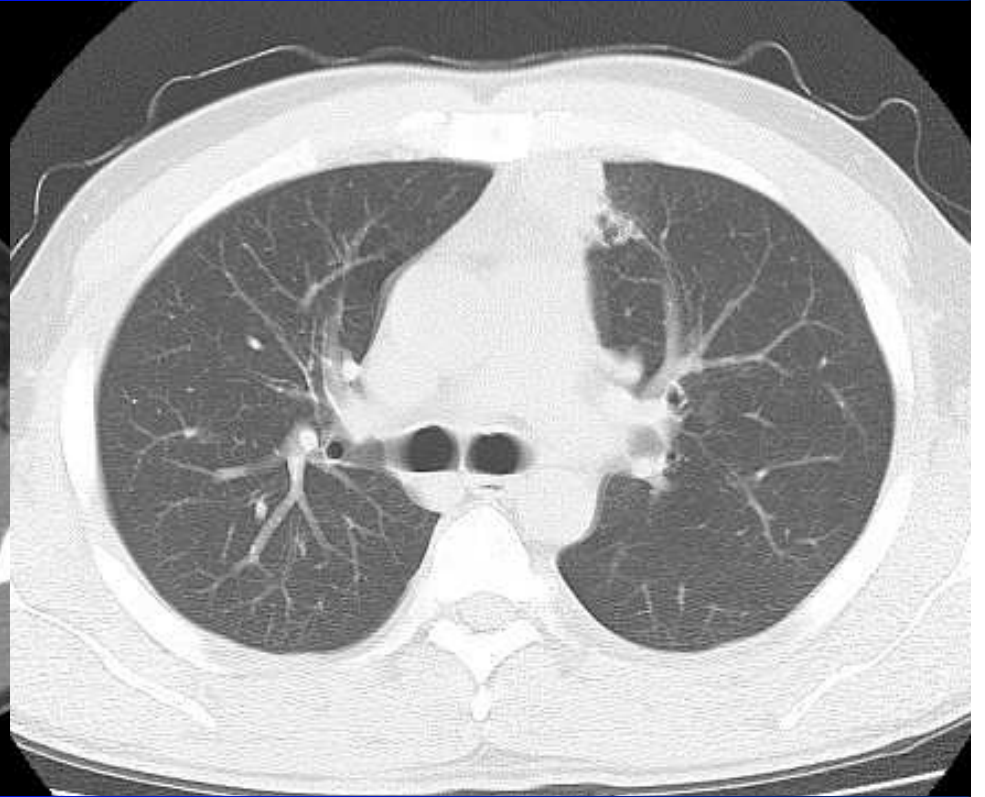
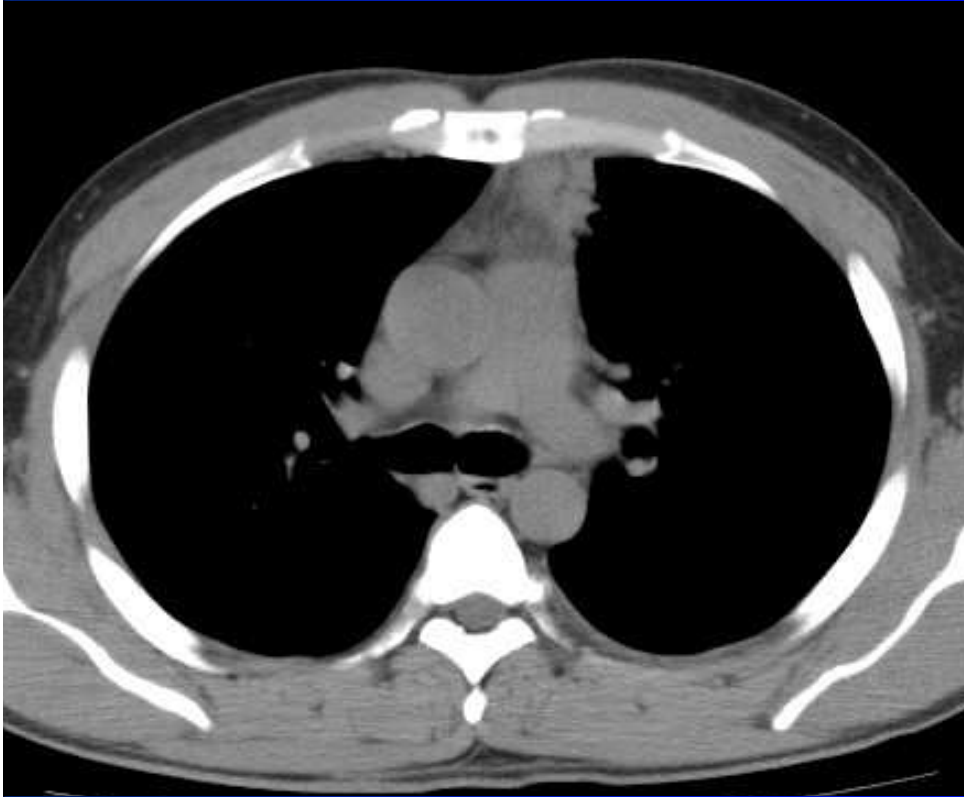


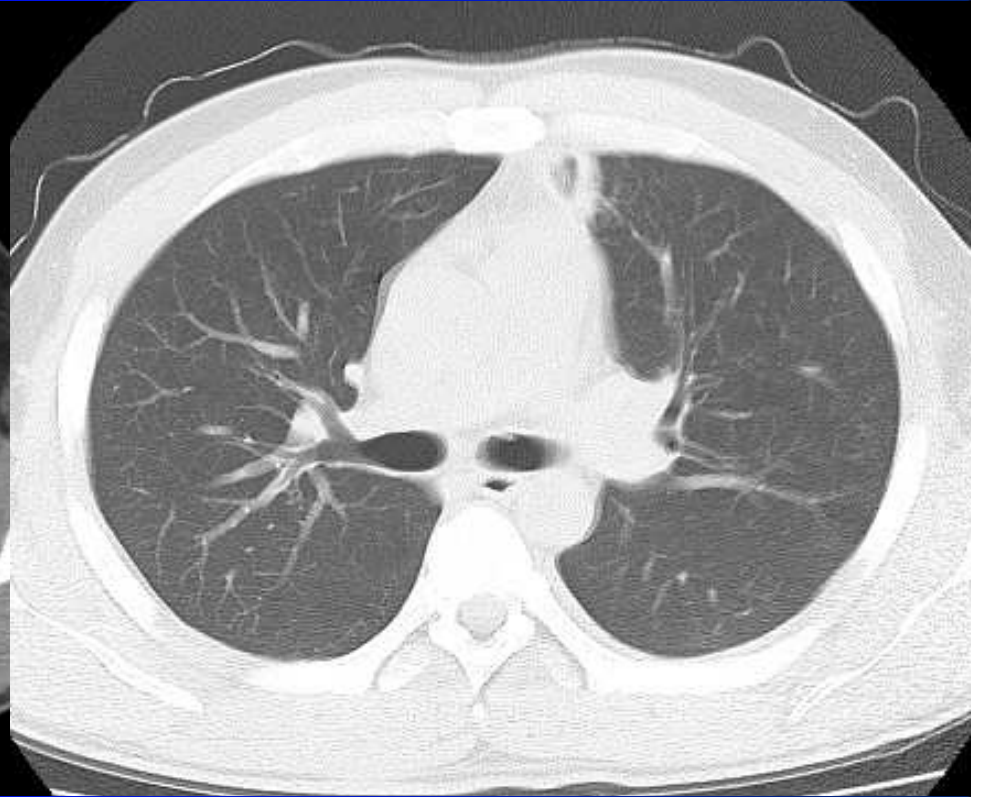


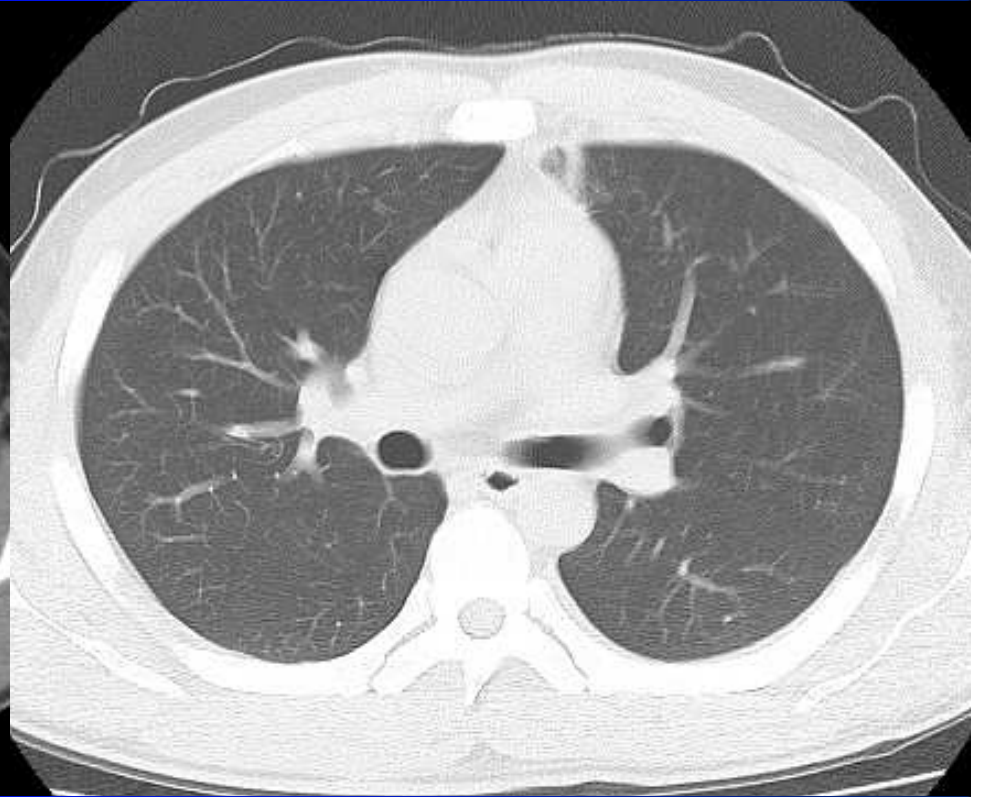








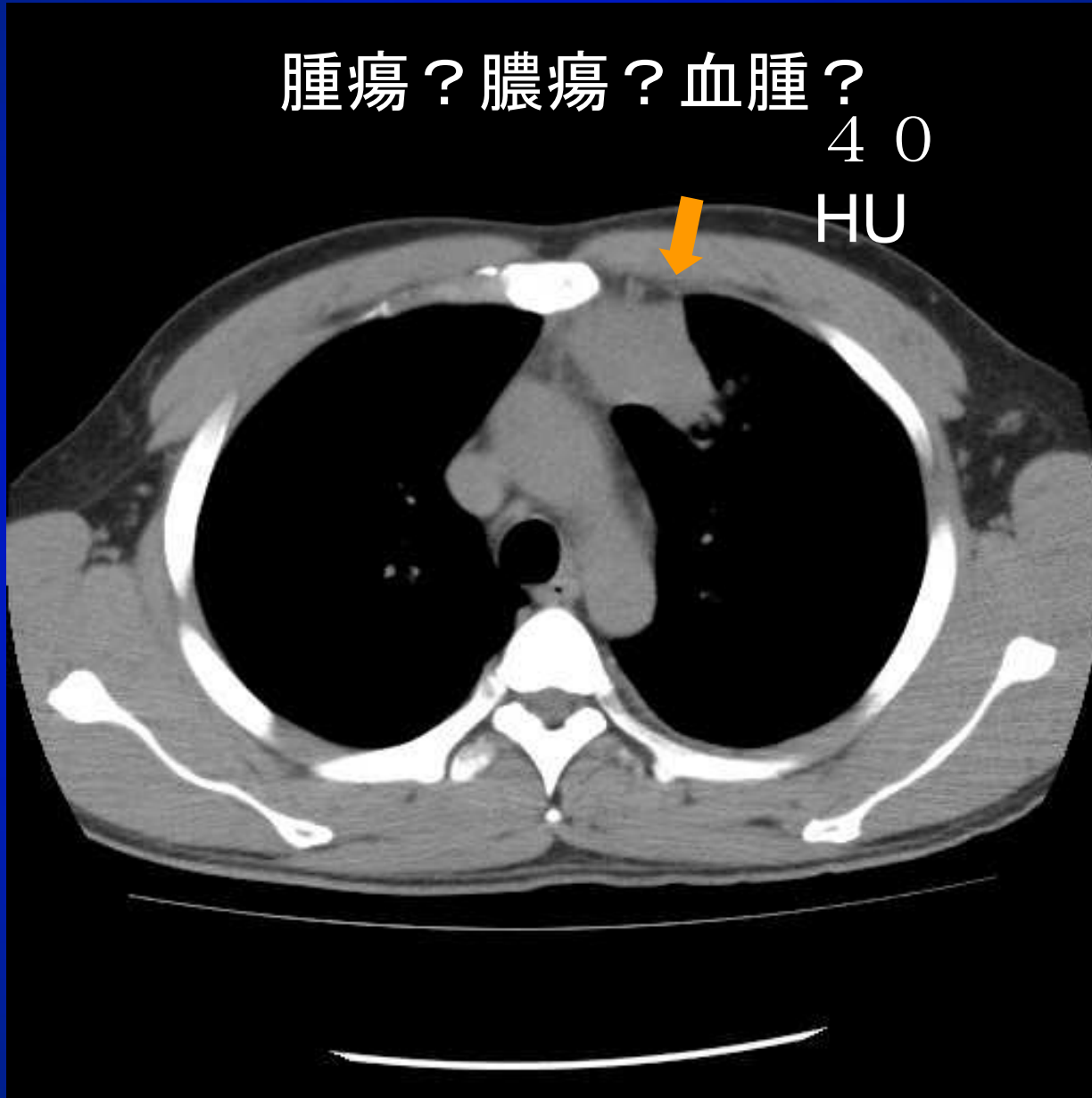




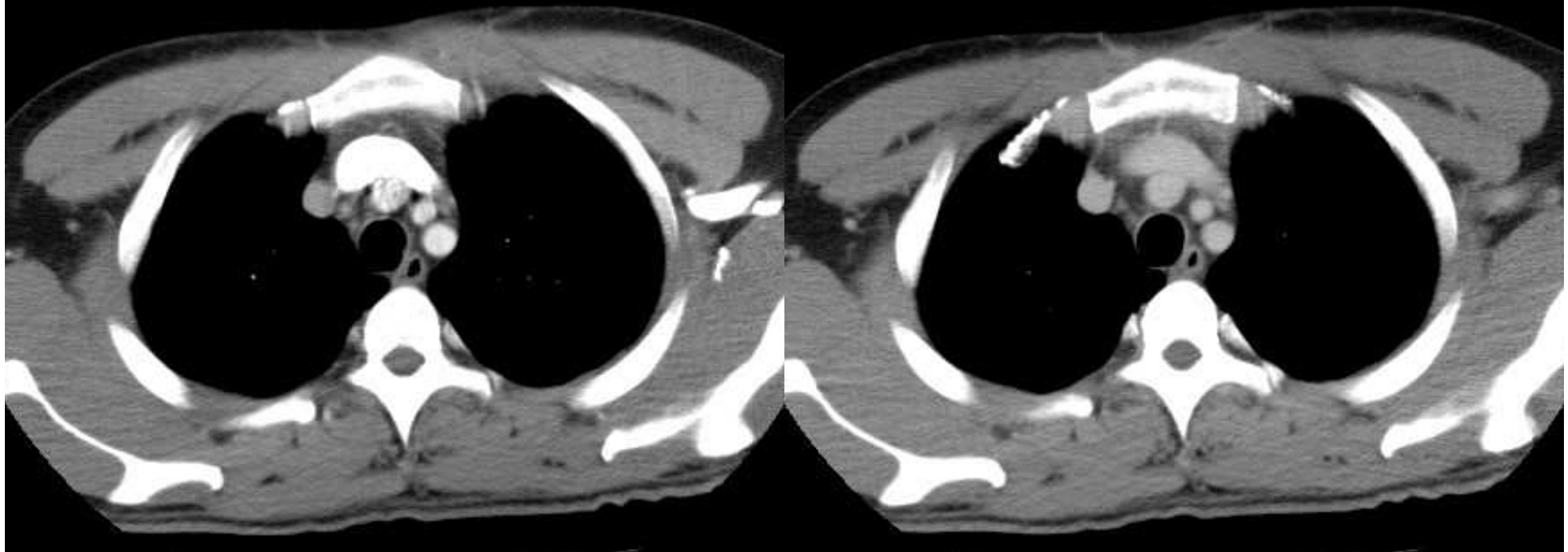
腫瘍？膿瘍？血腫？

40

HU

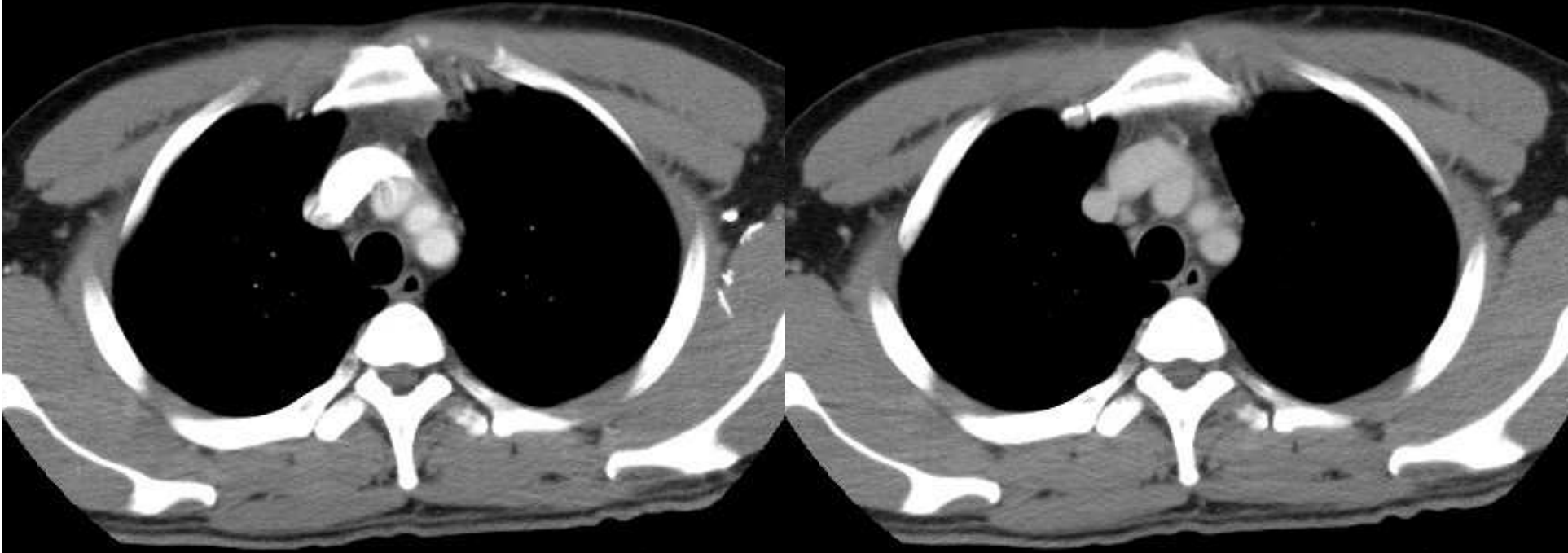


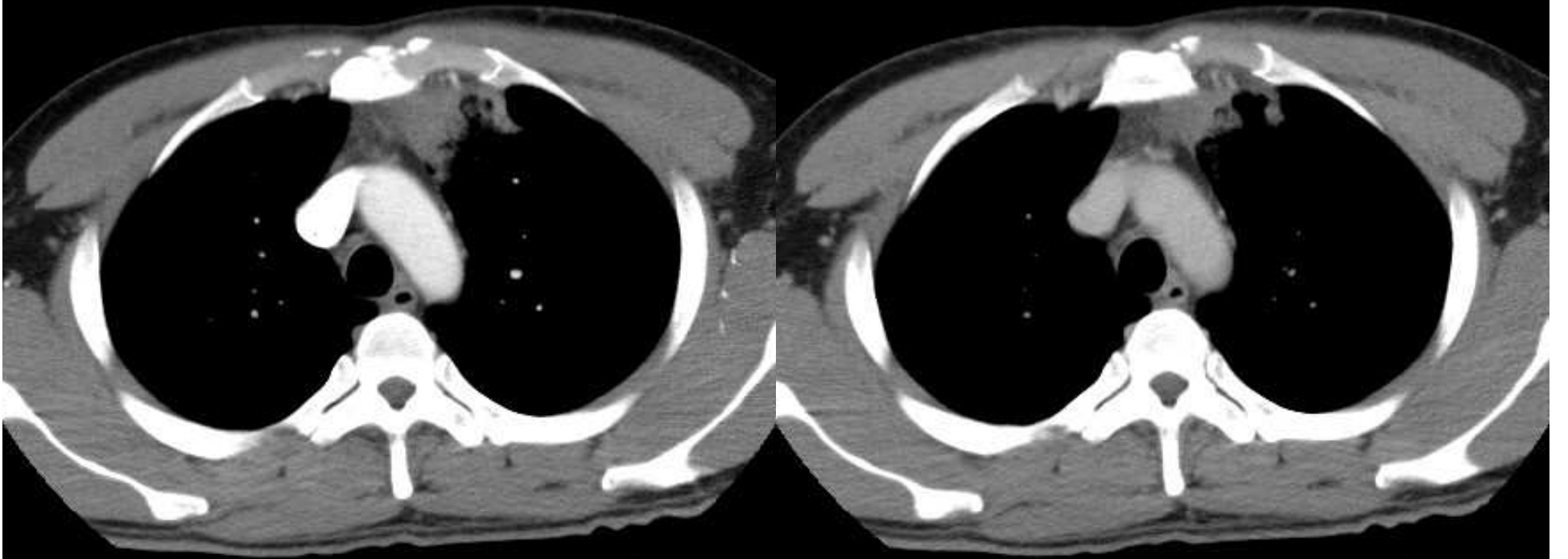
造影CT

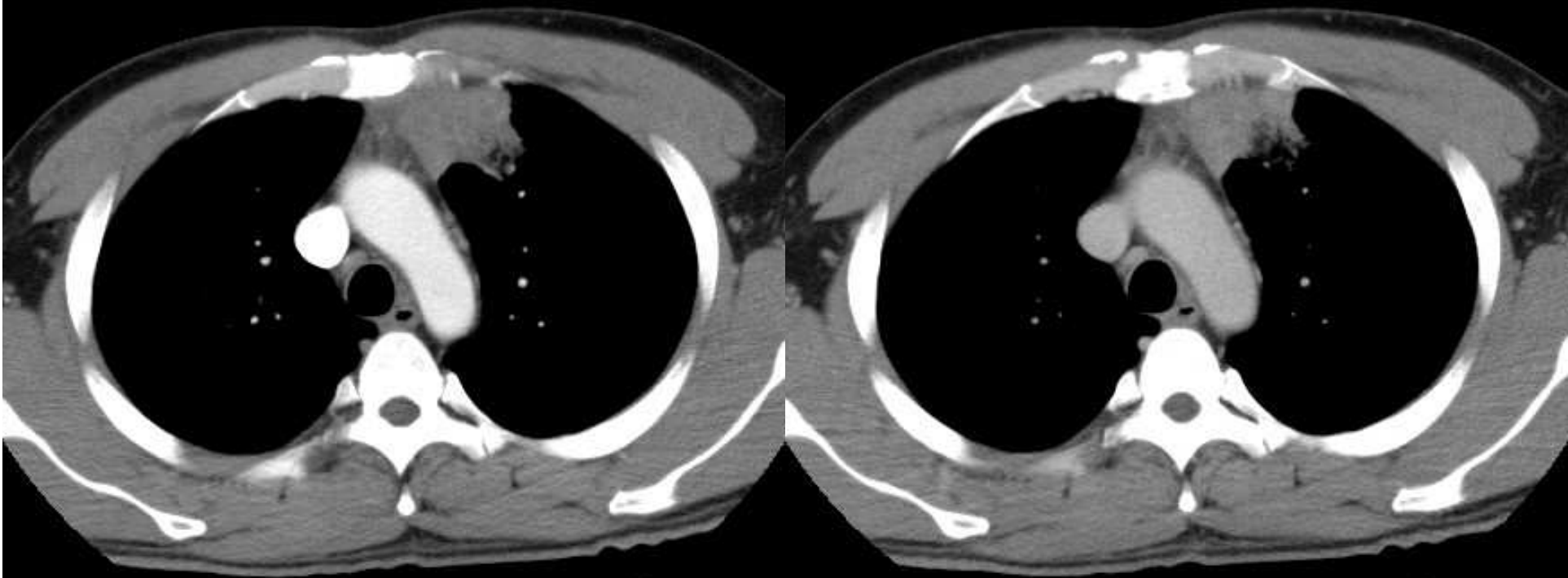


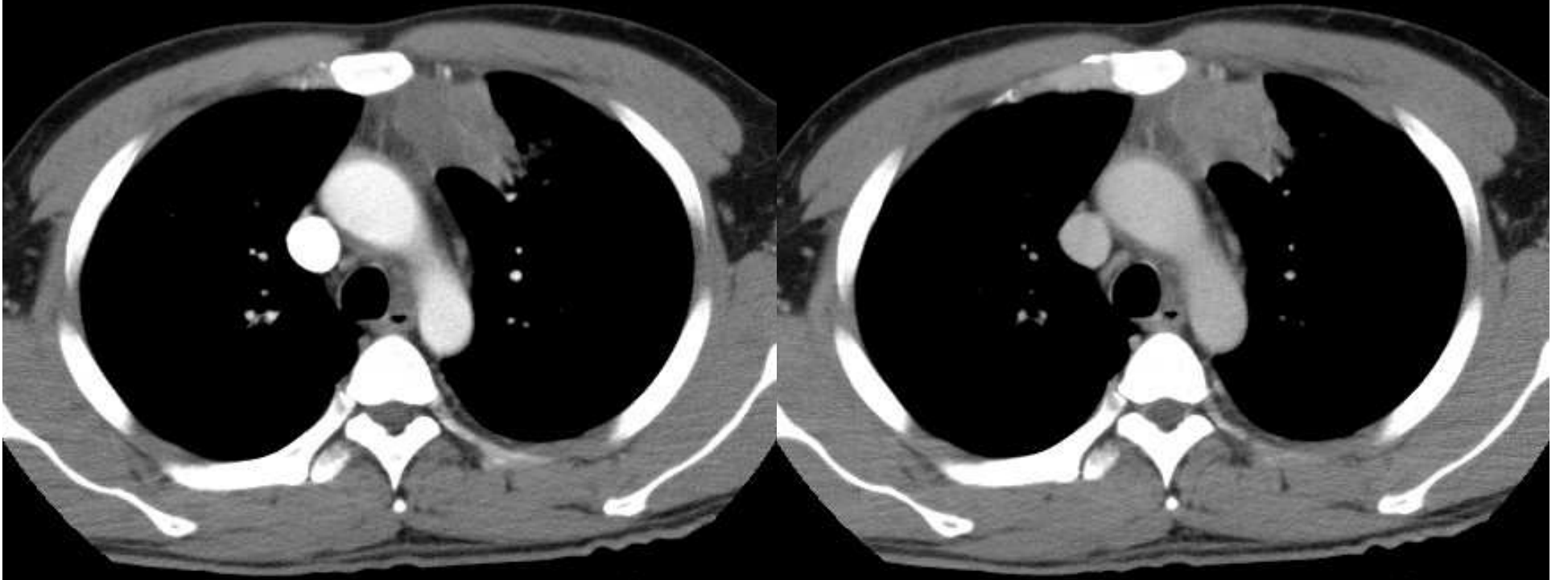
30s Delay

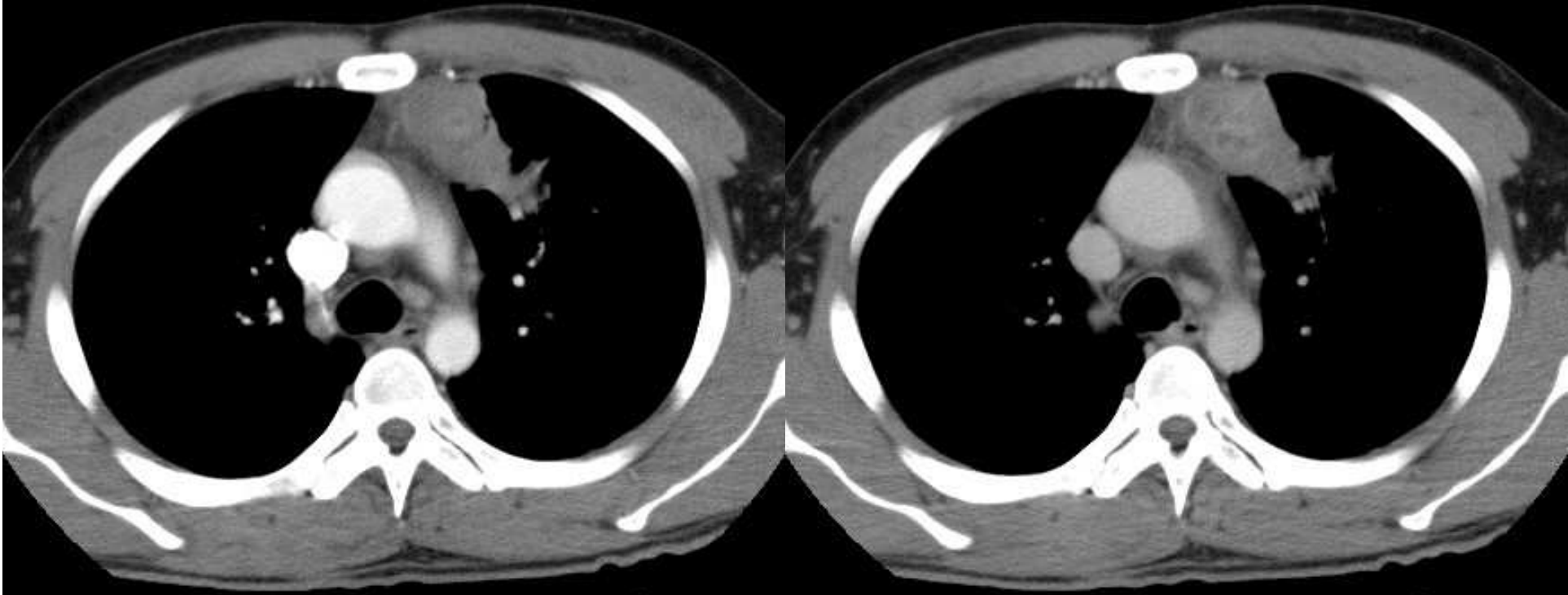
90s Delay

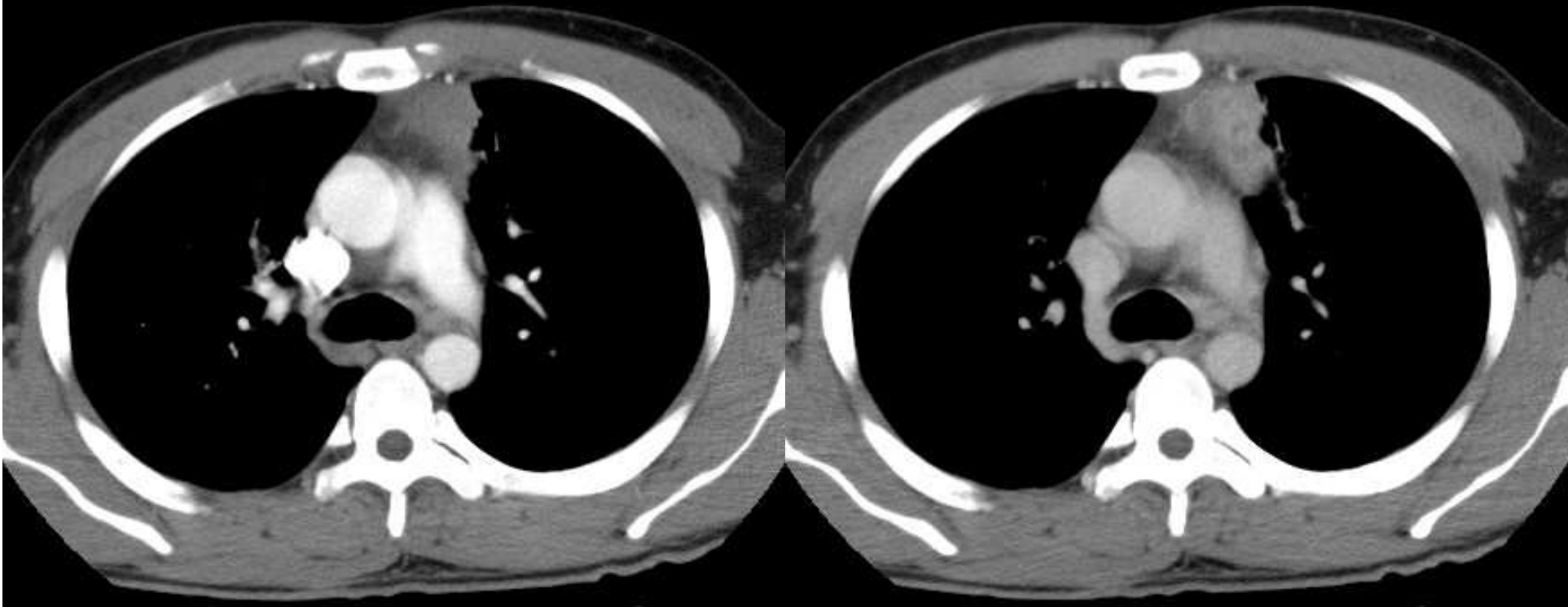


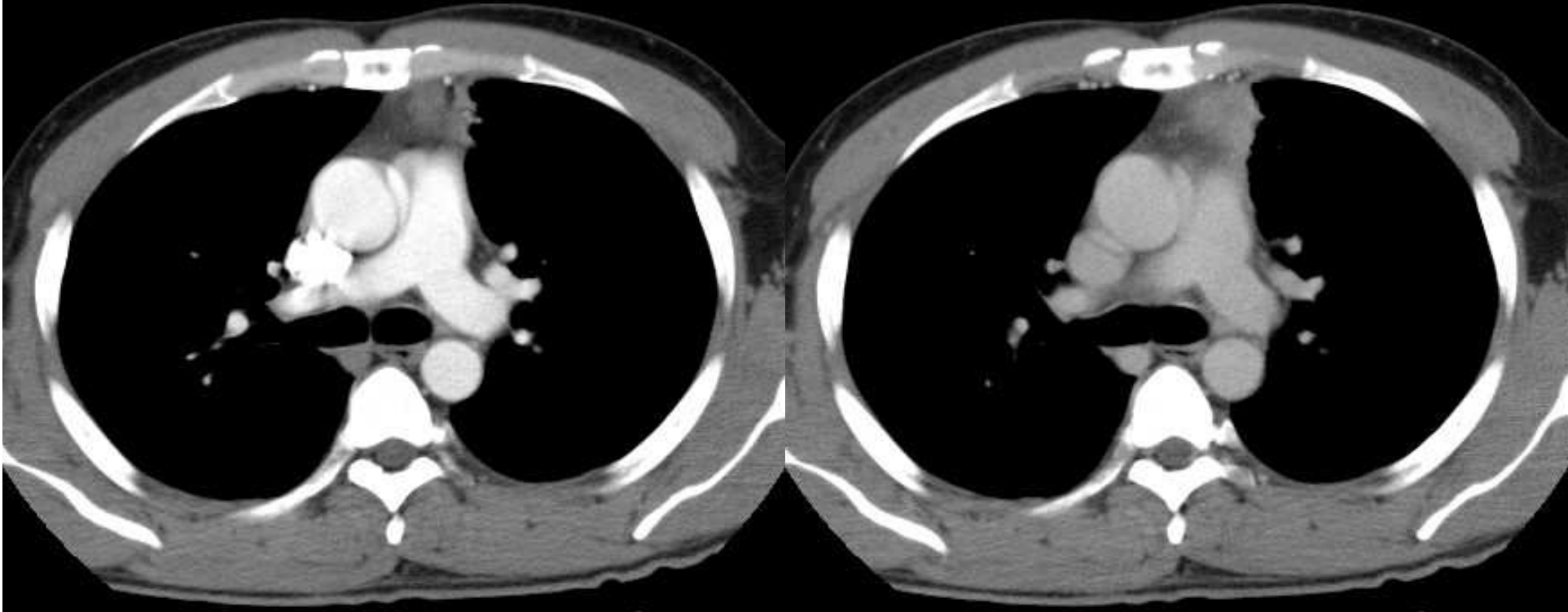


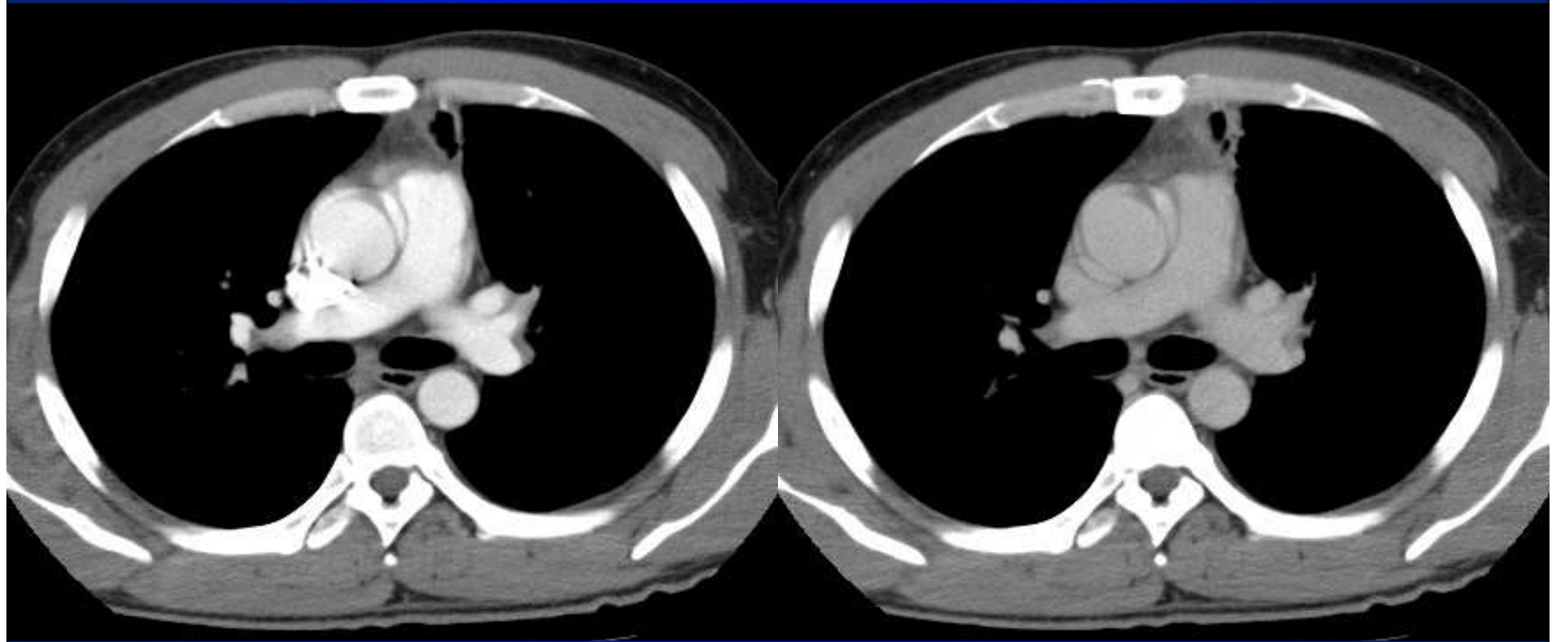






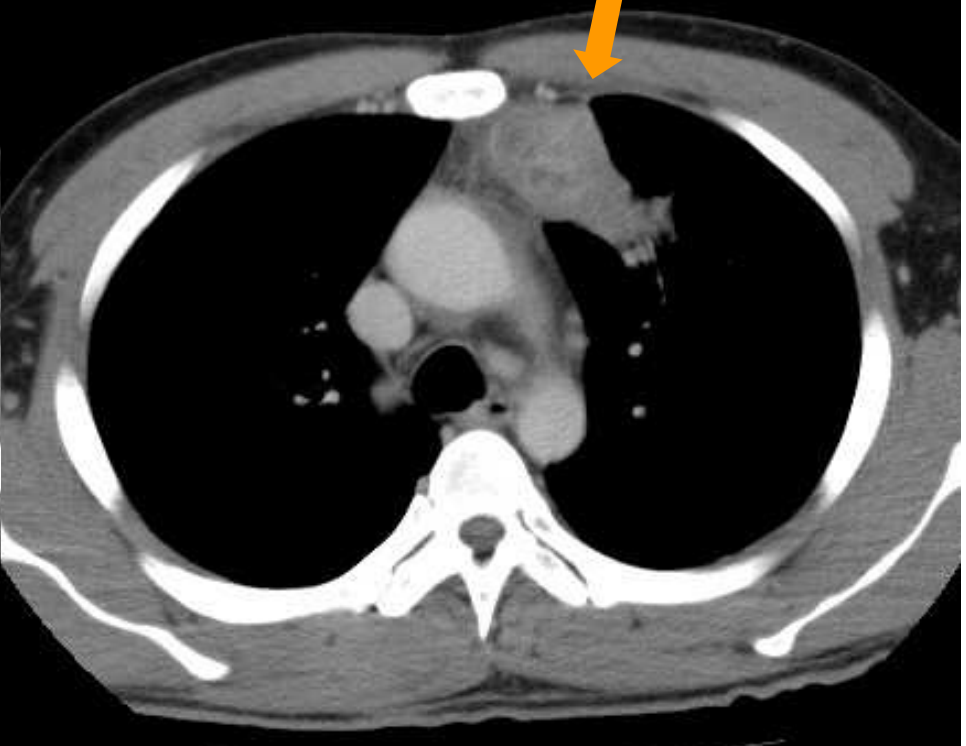






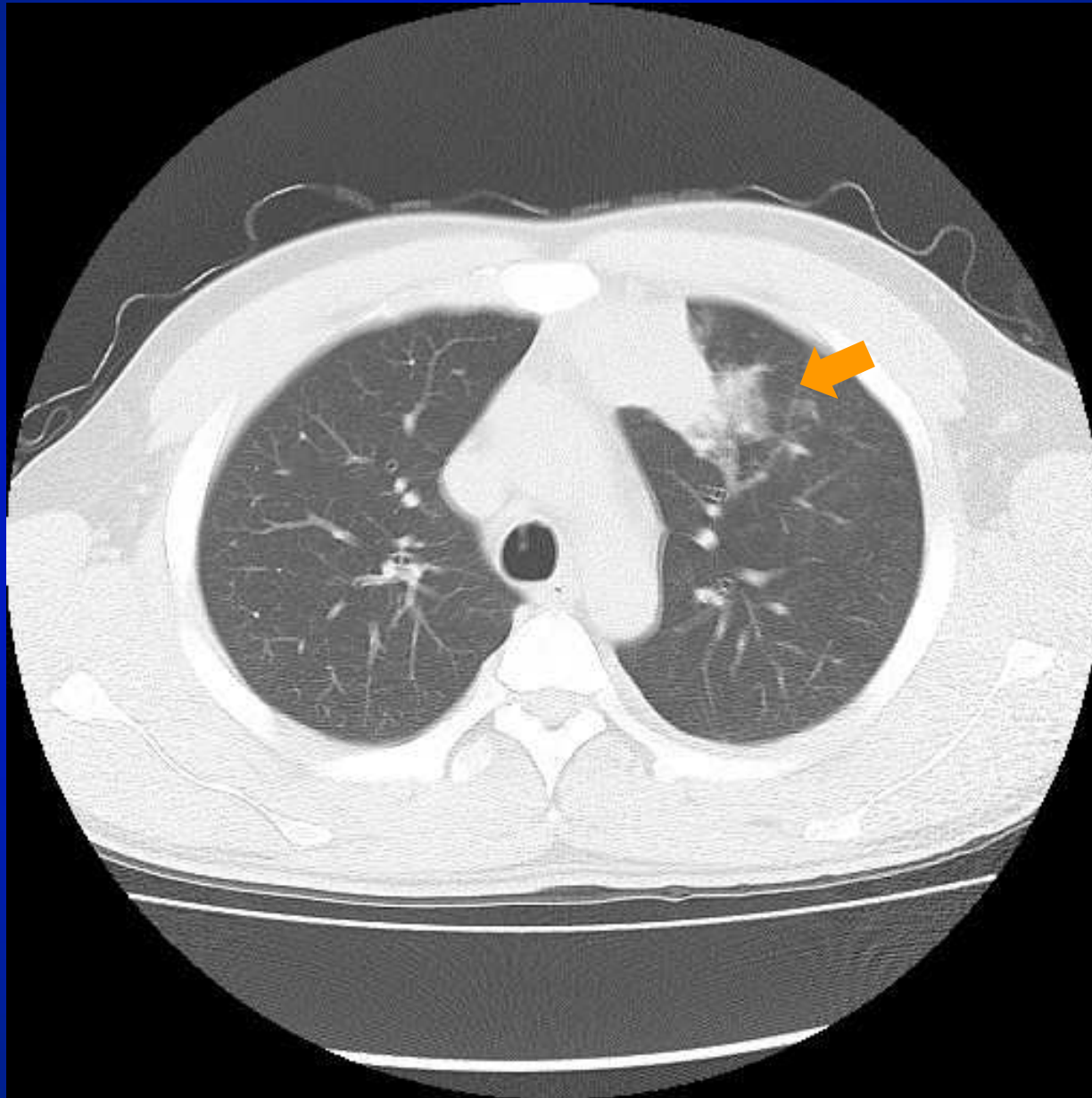
50
HU

70
HU

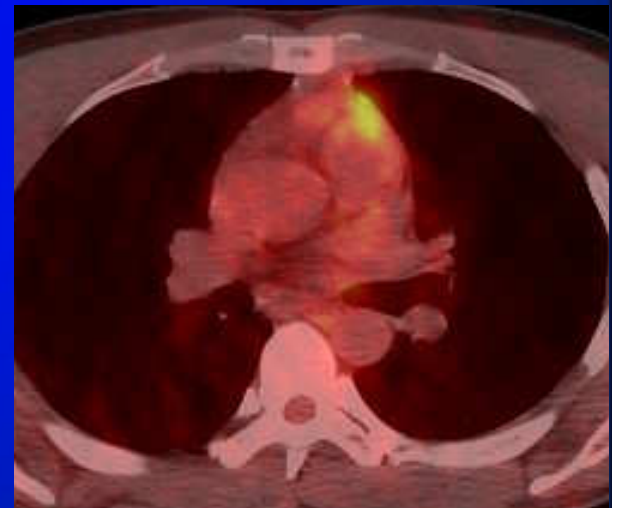
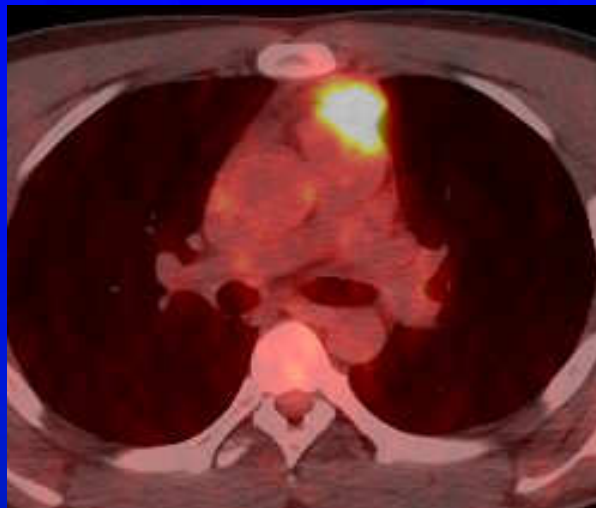
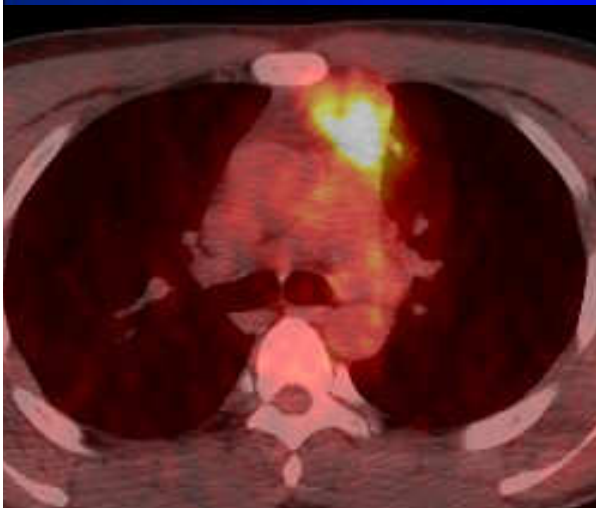
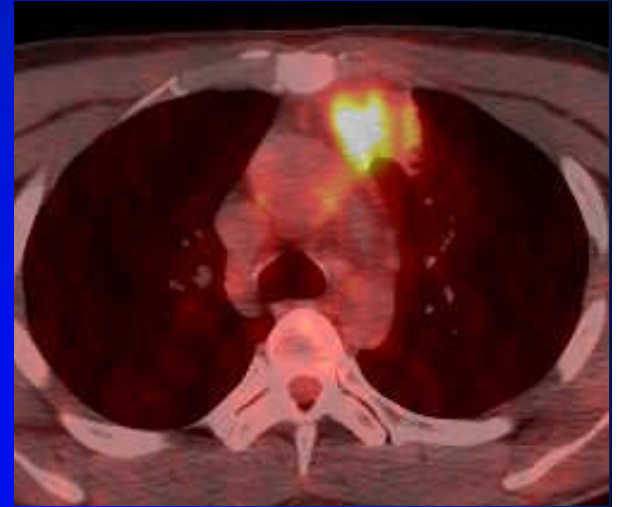
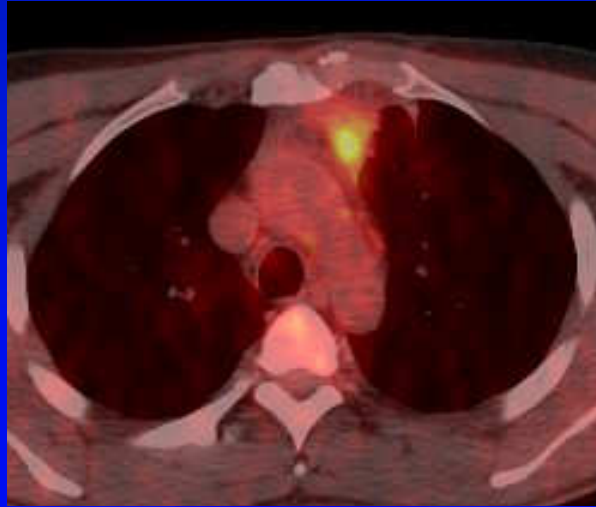


30s Delay

90s Delay

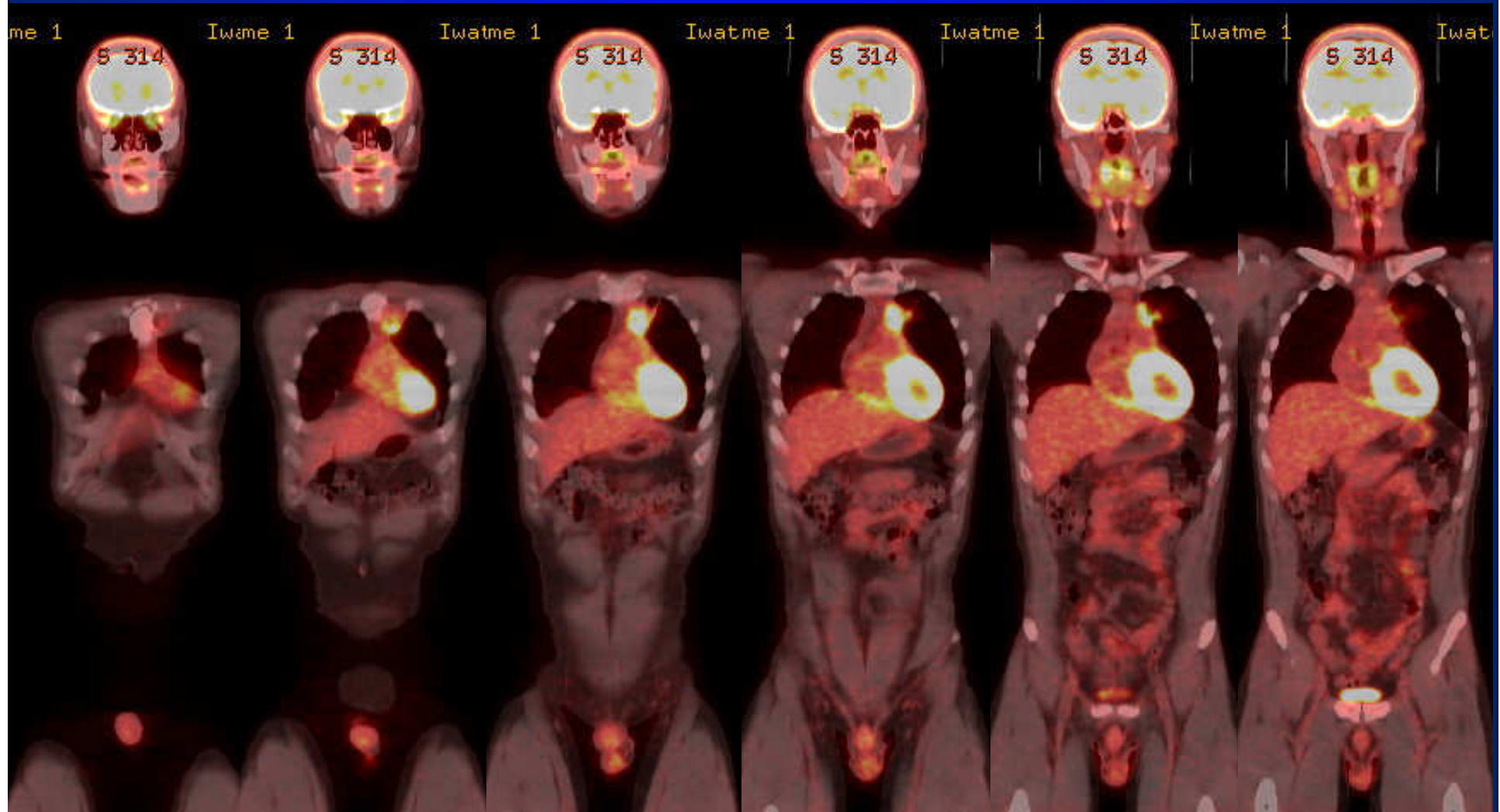


PET-CT (Fusion-Axial)



SUV max 11.5

PET-CT (Fusion-Coronal)



CTガイド下生検



手術施行

開胸後、腫瘍を剥離。

大動脈を剥離したところで、腫瘍は胸膜に包まれていた為、肺原発と判断し術式を変更。

胸膜切開後、腫瘍を切除。

切除した腫瘍の病理診断は、多数の小型膿瘍と周囲組織には慢性炎症性細胞浸潤、リンパ球浸潤、肺胞内の器質化、マクロファージの集積があるが、腫瘍性変化はみられなかった。

考察

肺炎症性偽腫瘍の臨床報告を見ても、非常に鑑別が難しいと報告されている。

当院でも、CTガイド下生検では確定出来る結果は得られなかったが、造影CTやPET-CTの画像診断上、縦隔腫瘍と思われていた。

しかし、手術結果より肺炎症性偽腫瘍と確定されたため、めずらしい症例を経験した。